

今後の検討の方向性

今後の検討の方向性

航空整備士

- ・ 航空整備士の人材不足は喫緊の課題であり、即時性のある対策が必要
- ・ 対策の検討にあたっては、「生産性の向上」と「人材の確保」を軸にして検討を進めてはどうか
- ・ 「生産性の向上」として、例えば、制度の活用による養成時間の削減、指定養成施設の拡大、現場に応じた資格制度への見直し、デジタル技術の推進等が考えられるのではないか
- ・ 「人材の確保」として、例えば、幅広い世代への整備士の魅力発信、外国人整備士等などの養成リソースの拡大等が考えられるのではないか

操縦士

- ・ 今後の大幅な航空需要の増加に向け、操縦士の確保のための一層の取組が必要だが、養成には相当の期間・コストを要することも踏まえると、関係機関が連携を密にして取り組むべき
- ・ 平成26年の乗員政策等検討委員会のとりまとめから、約10年が経過し、訪日外国人の大幅増加など取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえると、改めて将来にあたって我が国における操縦士の確保に係る必要な取組を検討するべきではないか
- ・ 具体には、国際的な動向も踏まえつつ、将来に必要な操縦士の数と、適切な養成体系、実現するための課題・対策を整理するべきではないか
(例：指定養成施設の拡大方策、規制見直しによる養成等の効率化、航空大学校の活用推進・安定養成に向けた対策など)

- 
- ・ 今後関係機関へのヒアリングや他モードや諸外国の事例を参考に検討
 - ・ 規制の見直しにあたっては、国際的なルールとの整合性を十分に考慮